

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	雑歌 : 文苑
Author(s)	奇熊; 基紀; 清泉
Citation	龍南會雜誌, 64 : 86 - 87
Issue date	1898-03-30
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/5082">http://hdl.handle.net/2298/5082</a>
Right	

題えらす

龍田山たつ春風に世の中の人を吹かせてしな  
阿蘇かねの風吹きあれて飽田野の里わの梅にふる霞かな

評曰、これらを見挫跡さやいふへからん

紅葉か丘にて會えけるに師の君のおそかりければ

春の日のなかしどもなし師の君を心々に待ちわひをれば

雑歌

折にふれて

浦鹽の浦風までも敷嶋の大和の春はのとけからま

評曰、外國人の方より讀める様なり

新年雪

のどかにも積る雪かなあらず玉の年立つ朝は風たにもなく

若菜

春の野に若菜摘にとゆく子らの心やいかにのとけかるらん

春興

のとけまや霞の奥に行きくれて花の影かる春の心は

曉霞

溪

川

桃

江

奇

熊

基

紀

清

泉

たしなへて幾重ともなく野も山も霞こめたり春の曙

尋花

鶯に今日さそはれて春の野の花より花を尋ね行く哉  
とめてよとわれ待つ人は片山の垣根の梅の主なりけり  
春來れは里の犬追ふ童さへ梅の花かささして行くなり

歸雁

かへる雁わすれな果を歸るとも心つくまの春の曙

感

時しあれは雁も越路にかへるなりいかてか人の行き迷ひける

師の君にあひて紅葉山の會ありと聞きて

紅葉山今日のまどひを知りもせは訪はんと人に契らしものを

荷馬を見て

何よりもわきてあはれに覺ゆなりむちうたれつゝ走るやせ駒

漢詩

晚春郊行

富米野樂山人

十里長堤望欲迷、斜陽影裏路東西、遠村嫩綠春如夢、對雨峰懸含雨低。

聞鶯